**エクアドル定期報告（経済概況　２０１３年１２月）**

**１．輸入規制の強化**

（１）貿易委員会（ＣＯＭＥＸ）の１１月１９日付措置第１１６号に基づき，３日から２９３のグループに分類される食料品，化粧品，玩具などの輸入の際にエクアドル規格協会（ＩＮＥＮ）の認証が必要となった。

（２）１１月２３日，ラミロ・ゴンサレス工業・生産性大臣は，ラテンアメリカの国々は平均して６，０００もの輸入にかかる規則を策定しているにもかかわらずエクアドルには同様の規則が２，３００のみである。国内産業保護のため新たな規則を策定し輸入を規制する考えを明らかにしていた。

（３）６日，エドゥアルド・ペニャ・グアヤキル商業会議所会長は，政府が新たに導入した輸入規制政策を批判し，「ドル化した（エクアドル）経済の安定に直接的に影響する貿易収支を均衡させることには賛成だが，その手段は間違っている。今回導入された措置には十分な準備期間がなく，すでに輸出国を離れエクアドルに向かっている輸入産品は難しい状況に置かれることになるだろう。また，輸入規制は密輸の増加や小売価格の上昇を招くだろう」と述べた。

（４）また，ヘンリー・クロンフル・グアヤキル工業会議所会長は，「（エクアドルの）工業は，輸入規制による保護ではなく明確なルールを必要としている。それは通商協定による世界市場への復帰であり，だからこそ欧州連合（ＥＵ）との通商協定が重要なのである」と述べた。

**２．アンデス開発公社からの２億７，５００万ドルの融資合意**

３日，ファウスト・エレラ財務大臣は，地方における上下水道整備プロジェクトに関し，アンデス開発公社（ＣＡＦ）からの２億７，５００万ドルに及ぶ融資に合意した旨明らかにした。返済期間は１５年。プロジェクトは総額３億４，７００万ドルで，そのうち２億７，５００万ドルをＣＡＦからの融資で賄い，残り７，２００万ドルはエクアドル側が負担する。

**３．欧州議会によるエクアドルに対する特別特恵関税制度（ＧＳＰ＋）の延長決定**

１２月１２日，欧州議会本会議は，エクアドル，アルメニア，ボリビア，コスタリカ，カーボヴェルデ，グルジア，モンゴル，ペルー，パキスタン，パラグアイに対する特別特恵関税制度（ＧＳＰ＋）を２０１４年１２月３１日まで１年間延長する旨決議した。なお，１１月５日に同議会国際貿易委員会（ＩＮＴＡ）が，エクアドルを含む１０ヶ国に対するＧＳＰ＋の延長を認める旨決議していた。

（注）エクアドルは世界貿易機関（ＷＴＯ）基準で３年連続で中高所得国に分類されたことから２０１５年以降ＧＳＰ＋の対象から外れることが確実とみられている。

**４．ラテンアメリカ・カリブ経済委員会による経済概観年次報告書**

１２日，ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ＥＣＬＡＣ）は，ラテンアメリカ・カリブ地域の２０１３年経済概観報告書を発表した。

同報告書によれば，２０１３年の域内経済成長率は，２．６％で，２０１２年の３．１％から０．５ポイント低下しており，２０１１年以降域内経済の成長鈍化傾向が続いている一方，２０１３年のエクアドルの経済成長率は，域内平均を１．２ポイント上回る３．８％となる見通しである。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(了)